

まちの ニュース



正確で迅速な消防技術を競う自動車ポンプ操法競技を披露する松尾地区消防団

日ごろ鍛えた技を競って消防訓練大会

正確で迅速な消火技術と、厳正な規律を競う市消防訓練大会は、6月10日の西根地区を皮切りに、市内3地区で開催されました。

西根地区は西根地区体育館前駐車場で、3部門を開催し、ポンプ自動車8台、小型ポンプ5台、規律訓練13隊が出場。競技の結果、自動車ポンプは6分団、小型ポンプは5分団、規律訓練は12分団が優勝しました。



指揮者の号令のもとで、統制の取れた隊列を組んで行進する西根地区消防団

した。

松尾地区は17日、松尾総合運動公園ヘリポートで2部門を開催し、ポンプ自動車9台、小型ポンプ4台が出場。競技の結果、自動車ポンプは26分団、小型ポンプは14分団が優勝しました。

安代地区は23日、松尾総合運動公園ヘリポートで2部門を開催し、小型ポンプ10台、規律訓練10隊が出場。競技の結果、小型ポンプは33分団、規律訓練は36分団が優勝しました。各地区のポンプ操法競技で優勝した分団は、6月24日に行われた消防演習において模範のポンプ操法訓練を披露しました。



↑つり下げ型のバスケットを70個、壁掛け型のものを50個作りしました

←地域のにぎわいと人の輪の広がりをお願いながら、丹精込めてバスケットを仕上げる参加者

色とりどりの花が彩る地域のにぎわい

市商工会は6月7日、安代地区のビニールハウスで、斎藤富子さん（荒屋新町）と佐藤テツさん（吹田）を講師に迎え、ハンギングバスケット講習会を開催しました。

この講習会は、国道282号沿いの新町商店街活性化事業の一環として、毎年行われているもので、本年度7回目。商工会女性部員や、地域のボランティアなど約40人が参加

しました。色とりどりのペゴニアやガザニア、ペチュニアなどの花を使い、講師の指導を受けながら、街路灯に飾るつり下げ型や壁掛け型の見事なハンギングバスケットを作りました。

このバスケットは、地域住民が協力して水やりなどの世話をし、秋ごろまで花を咲かせ、地域のにぎわいに文字通り花を添えます。

毎月8日は地産地消の「八幡平の日」

市西根地区学校給食センターは、毎月8日を「八幡平の日」と位置付け、食材の地産地消とともに食育への取り組みも行っています。

6月8日には、田頭小学校で「八幡平の日」学校給食会を開催。5年生16人が小林順一副市長、高橋北英教育長と八幡平市産の食材で作られた給食を味わいました。

来年度からは西根地区だけでなく、松尾、安代地区でも同様の取り組みを行う予定です。



地元産の食材を使った給食

温泉郷の魅力を発信するスパシエの宿



修了者にスパシエ認定証とプレートを授与しました

温泉郷の魅力を発信し、誘客につなげることを目的に、八幡平温泉郷同業者会は6月20日、温泉を理解し、入浴を楽しめる雰囲気づくりをできる人を「スパシエ」として独自に認定する講習会を八幡平リゾートホテルで開催しました。講習会には、民宿やホテルから22人が参加。正しい温泉の知識や心肺蘇生法などを学びました。参加者は、観光客に信頼される温泉地づくりへ向け、意欲を高めていました。

地域の名誉かけ市民ゲートボール大会



コートの中では熱戦が繰り広げられました

平成19年度市民ゲートボール大会は6月6日、松尾総合運動公園多目的運動場で開催され、市内全域から40チーム、約300人が参加して交流と健康増進を図りました。

開会式では立柳勝幸さん（野駄）が「フェアプレーを誓います」と選手宣誓。選手は愛用のスティックを手に、チーム一丸となって日ごろ鍛えた技を競いました。大会の結果は次のとおりです。

▼①薬師②松尾③北村

地域の振興と発展を願う放送機材贈呈

田山有線財産管理協会（島内益男会長）は6月11日、地域の振興に役立ててもらおうとマイクやアンプ、スピーカーなど放送機材一式を田山支所に贈りました。

贈呈式は田山支所で行われ、島内会長から小林順一副市長に目録が手渡されました。

田山有線財産管理協会では、田山診療所建築費用の一部など、旧安代町からの累計で約3300万円相当の寄付を行っています。



島内会長（写真左）から放送機材の目録が贈られました

次代を担う青少年のために篤志を寄贈

高橋富男さん(大更)は6月7日、市に100万円を寄贈しました。

高橋さんは「市政の運営に役立ててください」と述べ、田村正彦市長に寄付金を手渡しました。田村市長は「財政運営が厳しい中、とても助かります。市民のために大切に使用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。

寄付金は市の奨学金貸付基金に積み立て、次代を担う青少年の育成に役立てます。



高橋さんから田村市長へ寄付が手渡されました

初夏の安比高原を吹く一陣の風になる



号砲を合図に一齐にスタートする選手たち

第19回ツール・ド・モリオカステージA P P Iは、6月16、17の両日、遠くは首都圏など県内外から約300人の選手が参加して行われました。

この大会は「みんな誰もがチャンピオン」をスローガンに開催され、初心者からベテランまで幅広い層の自転車愛好家の間で広く親しまれています。

選手は沿道からの声援を背に受け、日ごろ鍛えた力を競いました。

お茶とお菓子で楽しく学ぶ「和」の心

日本の伝統文化である茶道に親しみ、礼儀作法を学んでもらおうと、茶道教室「てらこや」の開校式は6月14日、寺田公民館で行われました。

この日は地域の児童15人が参加し、表千家流の茶道を体験。お茶やお菓子をいただきながら作法を学びました。

参加した児童は「もつとお茶を飲みたい」と大満足。同講座は12月まで全7回の開催予定で、伝統文化に理解を深めます。



おいしいお菓子を食べて満面の笑みを浮かべる児童



チェックポイントで輪投げや縄跳びなどに挑戦しました

市レクリエーション協会が主催する八幡平ウォークラリー2007は6月3日、八幡平温泉郷プータロ内を会場に家族連れなど14チーム、約30人が参加して行われました。

ウォークラリーは、コマ図と呼ばれるコース図を頼りに道順をたどり、チェックポイントで課題をクリアしながら進むゲームです。

参加者は、青空の下で心地よい汗を流しながら、楽しく課題に挑戦しました。

新緑に輝く自然を遊ぶウォークラリー

海を越えて実を結ぶ友好都市のきずな

八幡平市と本年1月に友好都市の契りを交わした沖縄県名護市との友好都市交流の夕べは6月7日、八幡平ロイヤルホテルで行われました。

八幡平市からは田村正彦市長や議会議員など30人、名護市からは島袋吉和市長ら40人

が参加しました。会ではそれぞれが郷土芸能を披露。地元からは、さくらさんさ愛好会の10人によるさんさ踊り、名護市からは祝いの席に欠かせない踊り「かぎやで風」や、民謡「安里屋コンタ」などを島袋市長が先頭に立って披露しました。参加者は、より一層の友好を確認し、交流を深めました。



↑安里屋コンタの合唱に合わせて踊りを披露する島袋名護市長(前列左)ら

←名護市民と一緒にカチャーシーを踊り友好を深める田村市長



県教育委員会、財団法人日本青少年文化センター、市は、「ビバ！ムジカ」と題して、6月18日に西根地区体育館で青少年劇場を開催しました。

この事業は、優れた舞台芸術の公演に触れることで、児童の健全育成に資することを目的に行われています。公演に先立ち高橋北英教育長は、「アレビにはない、プロの迫力ある生の音楽をたっぷりと楽しんでください」とあいさつしました。

市内の小学校に通う児童と一般の市民など約550人が、はるばる東京から訪れたビバ！ムジカの5人が繰り広げ



客席の中に入り、間近で「チャルダッシュ」を演奏する宮古市出身の古館由佳子さん

ベートーベンの「よここびの歌」の指導を受けながら練習し、先生も交えて会場のみんなで大合唱。楽しい音楽の時間を過ごしました。最後に児童を代表して田頭小学校6年の伊藤風花さんから花束を贈呈。万雷の拍手で、ビバ！ムジカのすばらしい音楽に感謝の気持ち



「アベマリア」や「ふるさと」などおなじみの曲を披露

音楽の楽しさを肌で感じるプロの演奏